

2020年3月期第2四半期決算説明会

2019年11月20日

タキロンシーアイ株式会社

証券コード 4215 東証第1部

目次

1. 2020年3月期第2四半期決算実績	P. 2
2. 2020年3月期通期見通し	P. 9
3. 成長戦略	P. 12
Appendix. 会社概要・当社の特長	P. 18

1. 2020年3月期第2四半期決算実績



1-1. 2020年3月期第2四半期決算実績

損益計算書

(単位：百万円、%)

	2019年3月期第2四半期実績 (累計)		2020年3月期第2四半期実績 (累計)			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	73,278	100	70,738	100	△ 2,540	△ 3.5
売上総利益	20,309	27.7	19,454	27.5	△ 855	△ 4.2
販売費及び 一般管理費	15,840	21.6	15,816	22.4	△ 24	△ 0.2
営業利益	4,468	6.1	3,638	5.1	△ 830	△ 18.6
経常利益	4,574	6.2	3,716	5.3	△ 858	△ 18.8
親会社株主に帰属する 純利益	3,228	4.4	2,350	3.3	△ 878	△ 27.2
海外売上高	12,075	16.5	11,187	15.8	△ 888	△ 7.4
1株当たり 当期純利益(単位：円)	33.13	—	24.14	—		

1-2. 2020年3月期第2四半期決算実績

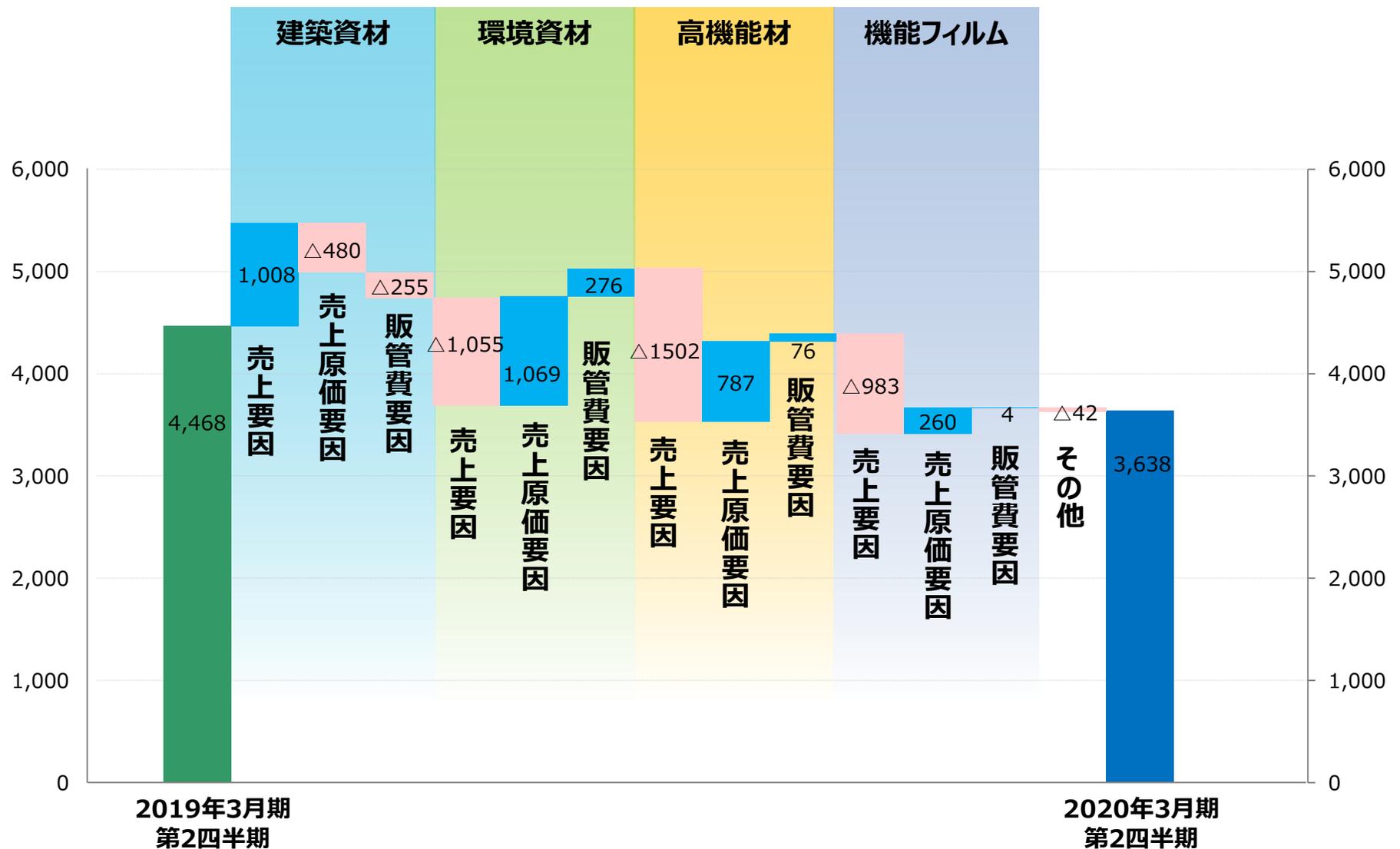
セグメント別売上高・営業利益（連結）

(単位：百万円、%)

	2019年3月期第2四半期 (累計)		2020年3月期第2四半期 (累計)			
	金額 (利益率)	構成比	金額 (利益率)	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	73,278	100.0	70,738	100.0	△ 2,540	△ 3.5
建築資材	22,488	30.7	23,496	33.2	1,008	4.5
環境資材	29,403	40.1	28,353	40.1	△ 1,050	△ 3.6
高機能材	10,115	13.8	8,612	12.2	△ 1,503	△ 14.9
機能フィルム	11,006	15.0	10,022	14.2	△ 984	△ 8.9
その他	264	0.4	253	0.4	△ 11	△ 4.2
営業利益	4,468 (6.1%)	100.0	3,638 (5.1%)	100.0	△ 830	△ 18.6
建築資材	1,167 (5.2%)	26.1	1,439 (6.1%)	39.6	272	23.3
環境資材	667 (2.3%)	14.9	963 (3.4%)	26.5	296	44.4
高機能材	1,191 (11.8%)	26.7	554 (6.4%)	15.2	△ 637	△ 53.5
機能フィルム	1,271 (11.5%)	28.4	552 (5.5%)	15.2	△ 719	△ 56.6
その他	169 —	3.8	126 —	3.5	△ 43	△ 25.4

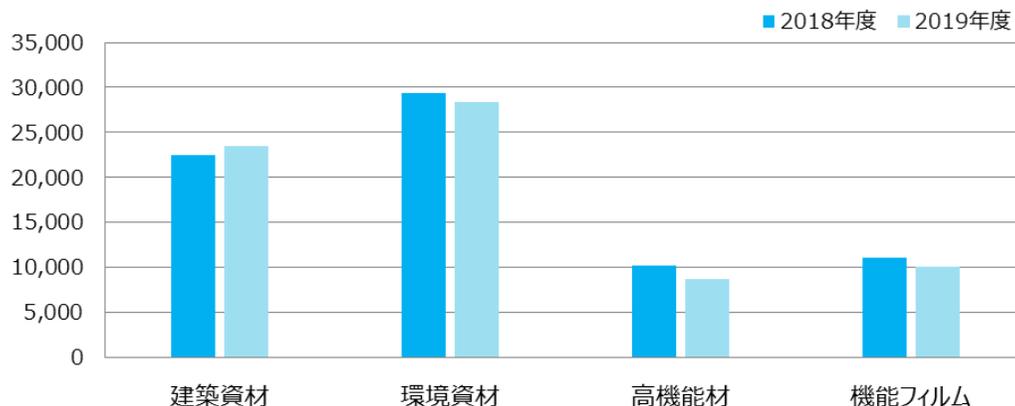
営業利益増減要因分析

(単位：百万円)

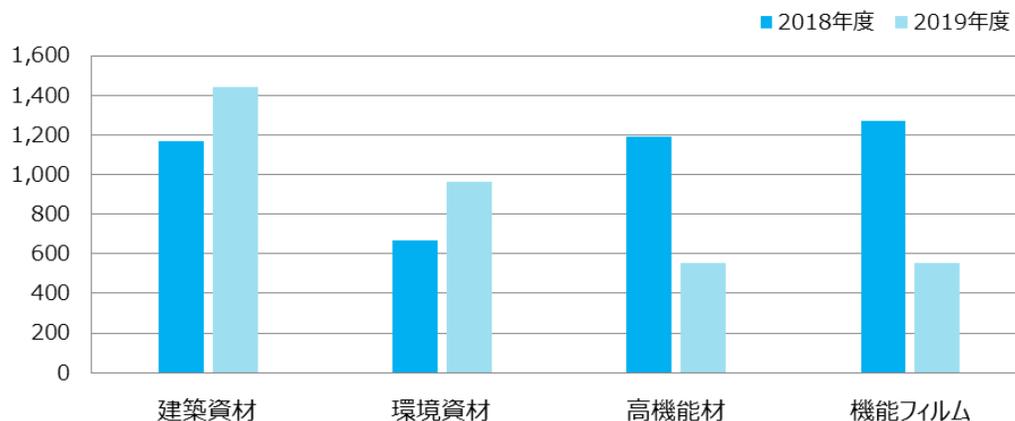


セグメント別概況

セグメント別 売上高 (百万円)



セグメント別 営業利益 (百万円)



[建築資材事業セグメント (住設建材事業・床・建装事業)]

- ・住設建材事業は、昨年の台風被害に対する復旧需要が続き、売上げは伸長。
- ・床部門は、大型連休によるマンション改修工事遅延が回復し、売上げが伸長。建装部門は、中国市場向けの販売が減速。

[環境資材事業セグメント (アグリ事業・インフラマテリアル事業)]

- ・アグリ事業は、農業用被覆フィルムが需要期に入ったこともあり、全般的に堅調に推移。
- ・インフラマテリアル事業は、災害復興物件向け資材が堅調に推移したが、一部非主力事業譲渡により減収。

[高機能材事業セグメント (高機能材事業)]

- ・高機能材事業は主力の工業用プレートが昨年後半からの半導体・FPD設備投資低迷が継続し減収。マイクロモーター、ナノ微粒子、大型濾過板などは伸長。

[機能フィルム事業セグメント (ボンセット事業・サンジップ事業)]

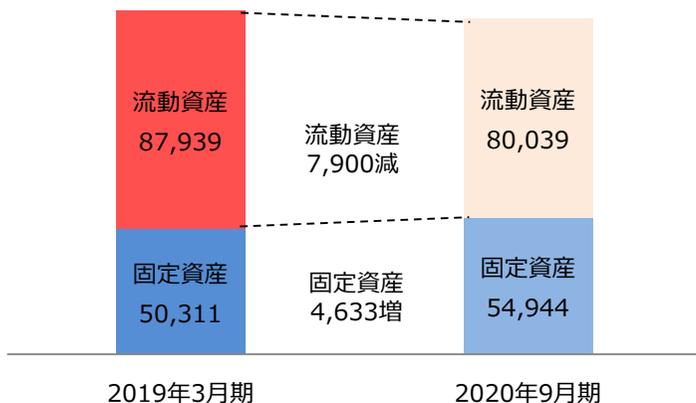
- ・ジッパーテープは、日本国内、アジア、欧米を中心に堅調に推移し増収。シュリンクフィルムは、北米でのラベル表示方法の改定に伴う流通在庫調整の影響等により減収。

1-5. 2020年3月期第2四半期決算実績

貸借対照表

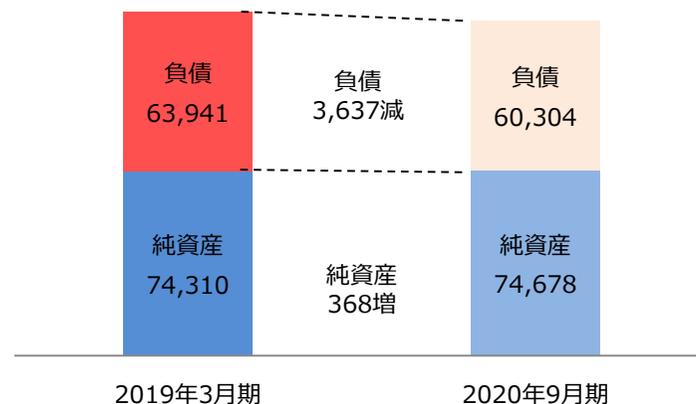
資産

(単位：百万円)



負債／純資産

(単位：百万円)



(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期 第2四半期	増減額
流動資産	87,939	80,039	△ 7,900
現金及び預金	6,835	8,659	1,824
売上債権	53,455	44,890	△ 8,565
たな卸資産	22,628	22,031	△ 597
固定資産	50,311	54,944	4,633
有形固定資産	38,101	41,633	3,532
無形固定資産	2,367	2,697	330
資産合計	138,251	134,983	△ 3,268

流動負債	51,920	48,241	△ 3,679
固定負債	12,020	12,063	43
負債合計	63,941	60,304	△ 3,637
(有利子負債残高)	4,911	5,060	149
純資産合計	74,310	74,678	368

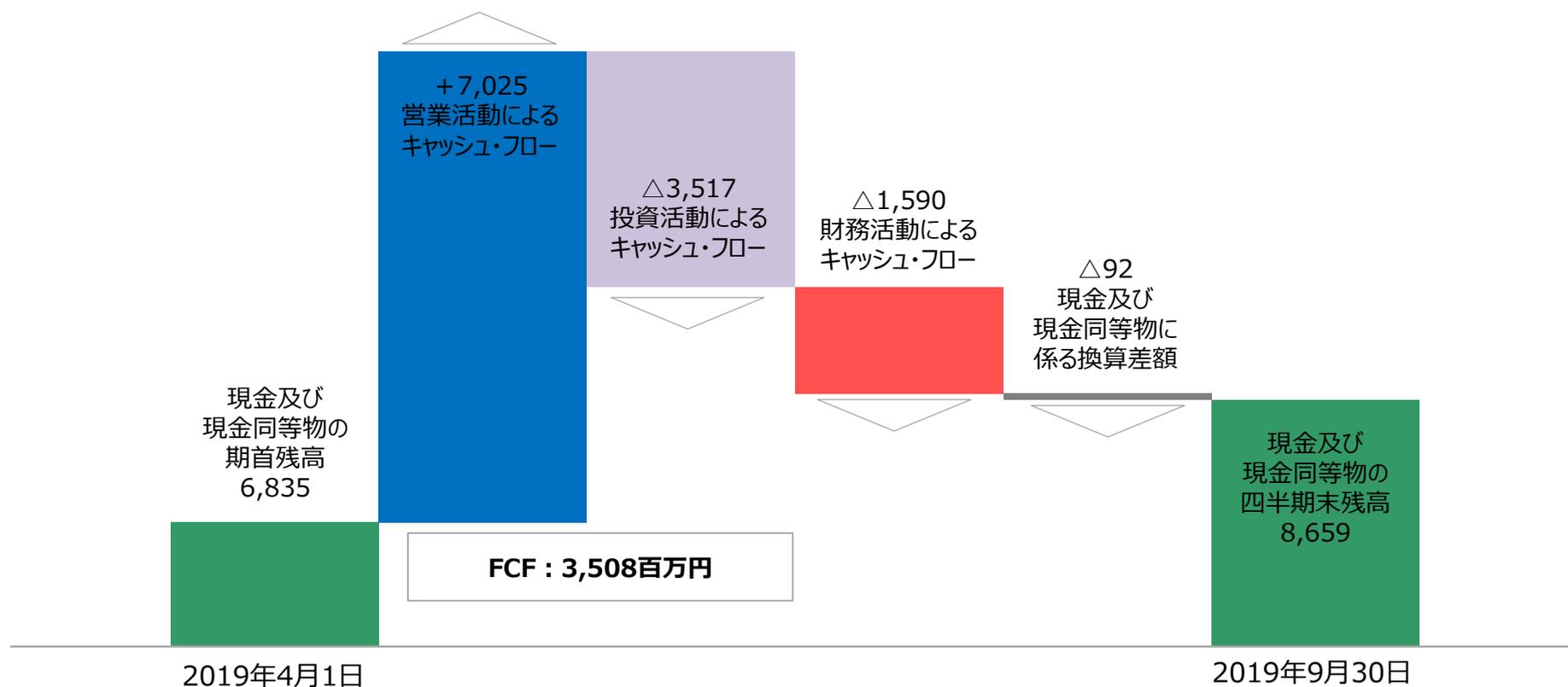
(単位：%)

自己資本比率	52.6	54.2	1.6
---------------	------	------	-----

連結キャッシュフロー計算書

- フリー・キャッシュフローは2019年3月期の184百万円から3,508百万円となった

(単位：百万円)



2. 2020年3月期通期見通し



2-1. 2020年3月期業績見通し

損益計算書（P/L）（連結）

（単位：百万円、％）

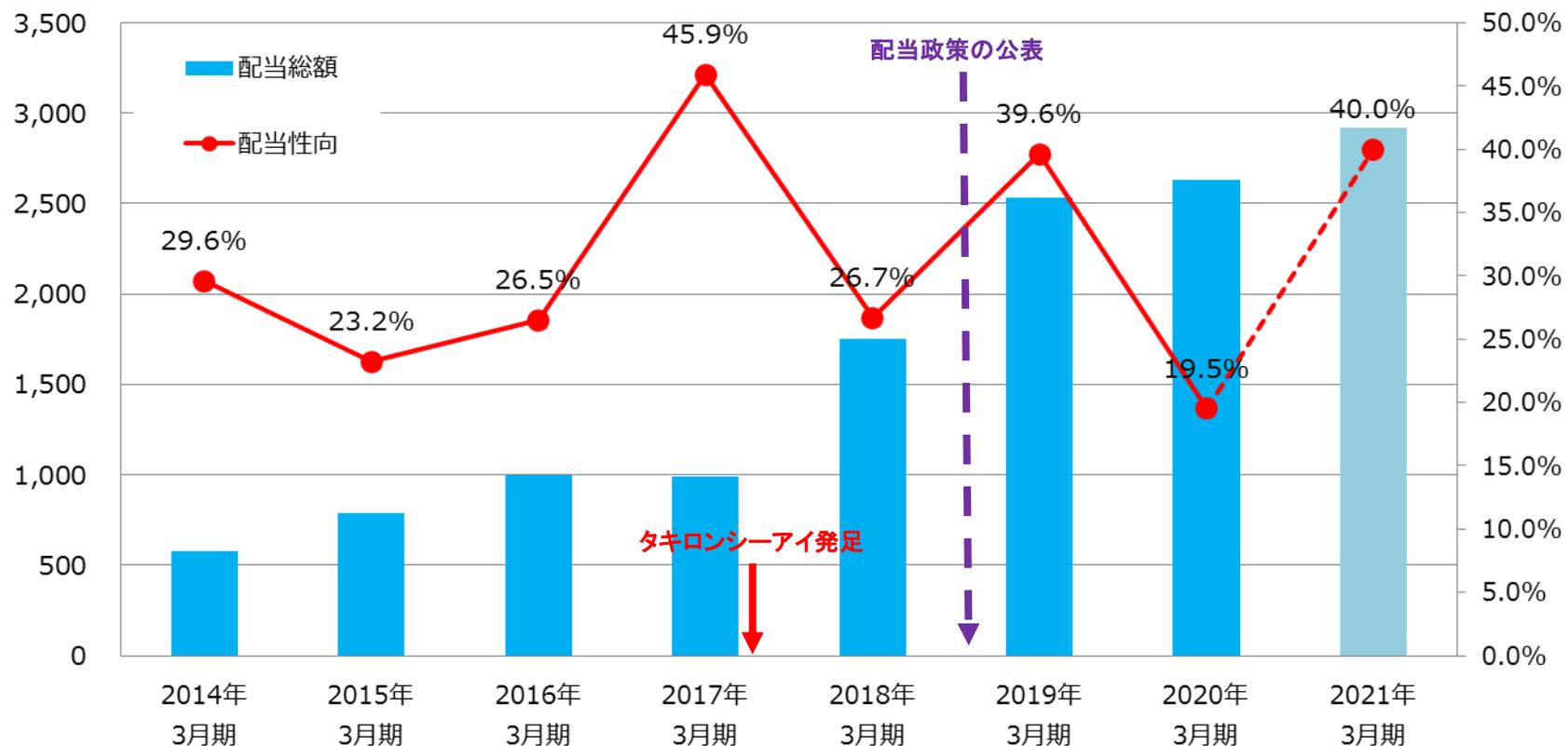
	実績		予想				コメント
	2019年3月期		2020年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
売上高	150,650	100	151,000	100	350	0.2	
売上総利益	41,018	27.2	41,300	27.4	282	0.7	
販売費及び 一般管理費	31,937	21.2	32,000	21.2	△63	△ 0.2	
営業利益	9,080	6.0	9,300	6.2	220	2.4	
経常利益	9,200	6.1	9,400	6.2	200	2.2	
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,391	4.2	13,500	8.9	7,109	111.2	■ 当社連結子会社における固定資産の譲渡および特別利益の計上
海外売上高	23,386	15.5	26,425	17.2	3,039	13.0	
1株当たり当期純利益	65.62		138.64				

配当予想

配当推移

- 中期経営計画（2019年3月期～2021年3月期）の配当性向は特殊損益を除いた利益の40%を目安としております。一方今期においては、当社連結子会社における固定資産の譲渡等による多額の特殊損益を見込んでおります。特殊損益を控除した業績予想から想定した年間配当金は前期に比べ1円増配の1株につき27円となります。

(配当総額：百万円)



年間配当 (円)	14.0	14.0	14.0	14.0	18.0	26.0	27.0	30.0
----------	------	------	------	------	------	------	------	------

(注) 2017年3月期以前は旧タキロンの値

3.成長戦略

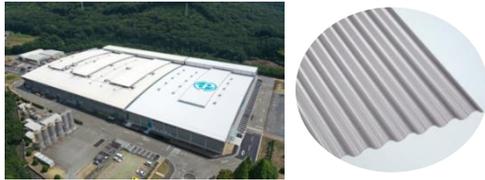


3-1. 成長戦略トピックス

統合シナジー抽出 (生産関連で概ね完了)

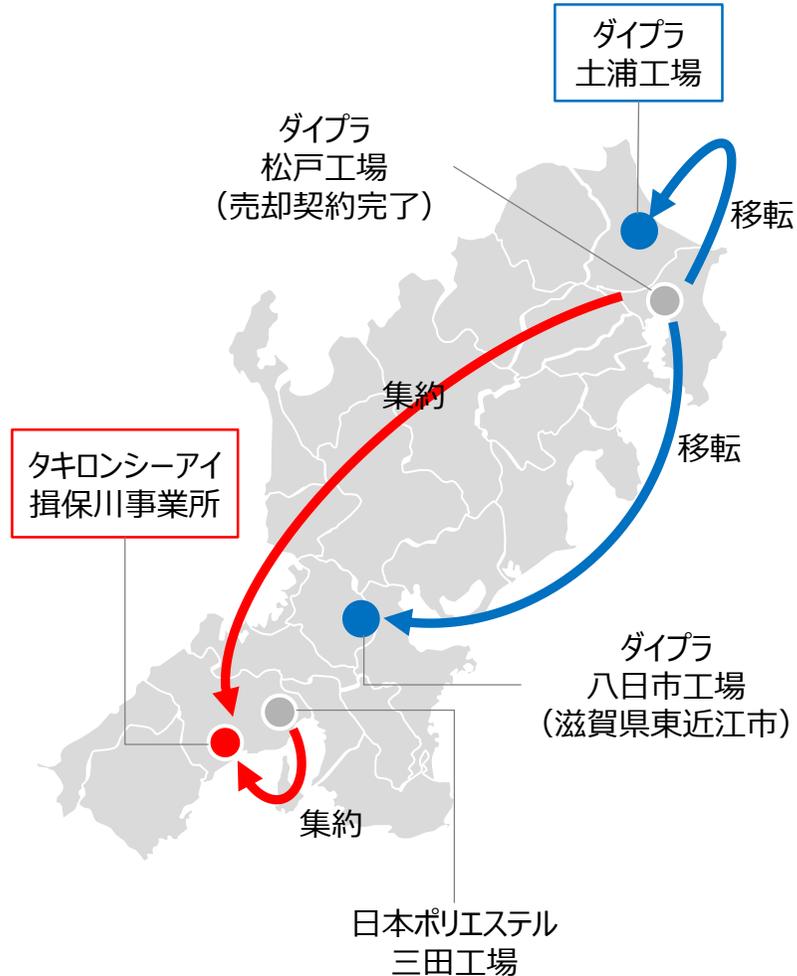
採光建材の生産集約

3社が独自に生産・販売しているポリカーボネート事業をタキロンシーアイ揖保川事業所に集約化、2019年9月より稼働開始



関東生産拠点の再構築

遊休となっている東京第一工場を今後、需要拡大が見込まれる大口径耐圧PE管(ハウエル管)の増産拠点として再構築、ダイプラ土浦工場として2019年11月より稼働開始



採光建材の生産集約効果

投資金額
20億円

収益効果
8億円/年

関東生産拠点の再構築

投資金額
27億円

収益効果
3億円/年

海外展開の加速（生産関連で概ね完了）

BONLEX EUROPE [イタリア ヴェネト]

日本から輸出品を現地生産にシフトし短納期、小ロット対応の実行により大手顧客要望の対応スピードアップにより利益拡大。

上海サンプラス [中国 上海]

新設ラインへの設備投資により能力を増強済み、さらに既存設備を改良する方式で生産スピードアップを実施。

Bonset America [アメリカ ノースカロライナ]

旺盛なPETシュリンクフィルムの需要増に対応した生産能力増強投資を実施。

投資による効果の取り出し

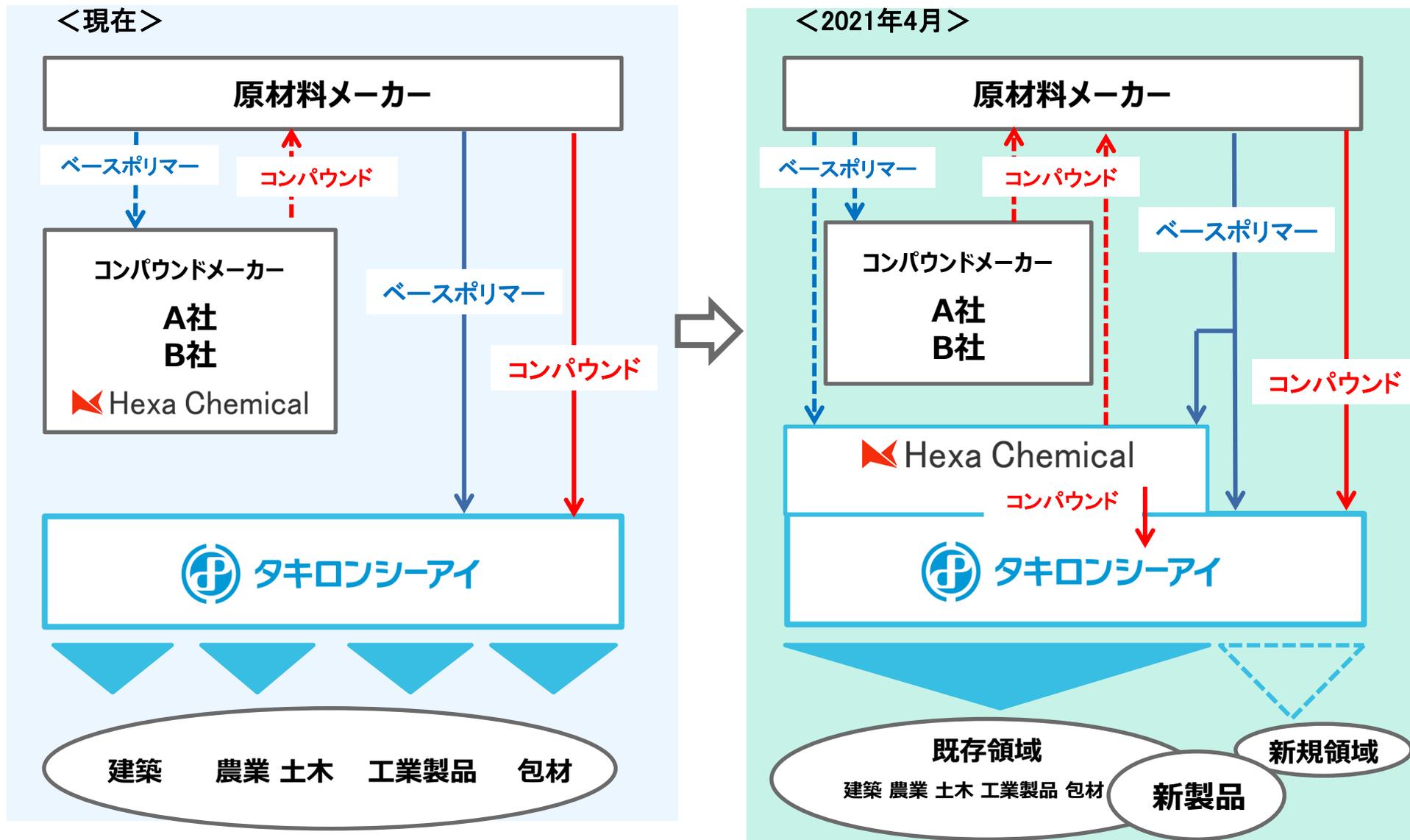
投資金額
25億円

収益効果
6.5億円/年

3-3. 成長戦略トピックス

ヘキサケミカルをグループ化

- (株)ヘキサケミカルとの更なる関係強化を目指し、2021年4月をめぐりにグループ化することで合意（11/1発表）



3-4. 成長戦略トピックス

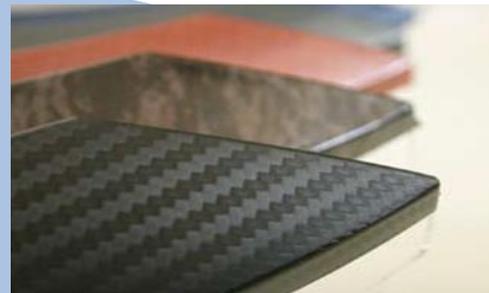
天昇電気の株式を取得

- 9月24日、天昇電気の株式を917,800株取得。発行済み株式総数に対してトータル5.4%を取得。自動車メーカーに対してTier1の位置付けである天昇電気との関係強化により、モビリティ分野へ進出するための足がかりとする。

モビリティ分野



車載ディスプレイ



内装材

Tier1

TENSHO

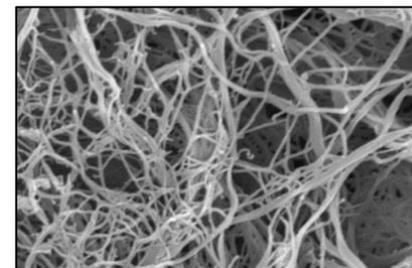
×

タキロンシーアイ

■その他

・雨水貯留浸透槽の拡販

・新規製品の共同開発（CNF製品他）

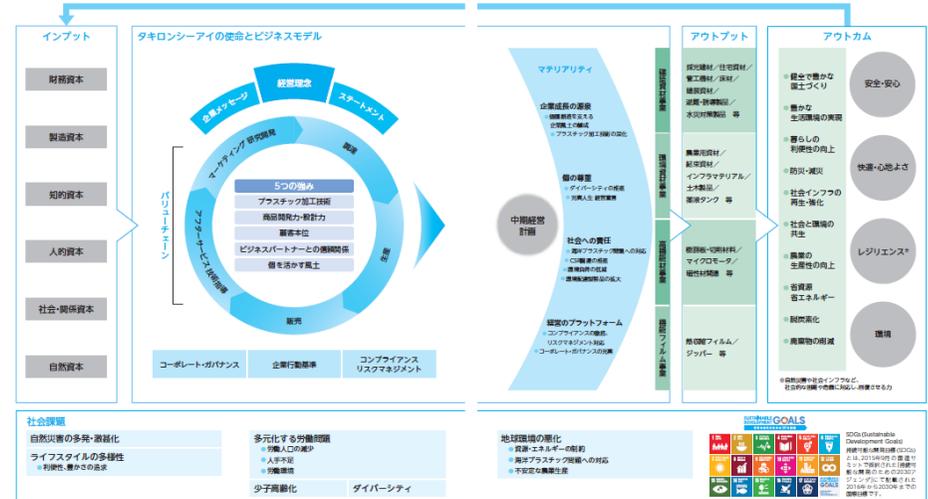


統合報告書：2019年9月30日発刊



価値創造プロセス図

タキロンシーアイグループは、「プラスチックテクノロジーで人と地球にやさしい未来を創造する」という使命の実現に向け社会課題解決に寄与する製品・サービスと価値を創造することで、社会的持続的発展への貢献をめざしています。



特定されたマテリアリティ

約20カ国にわたって特定されたマテリアリティ10項目は、関係者やSDG（目標）とのつながりがあります。社会課題解決やプラスチックテクノロジーの発展に貢献する重要な課題を抽出し、重要度の高い課題を優先的に取り組む予定です。

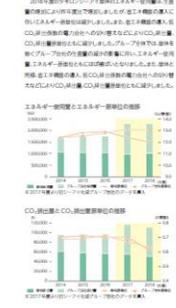
また、社会課題として社会課題解決の推進と、環境・社会・経済の持続可能な発展を推進するマテリアリティとして見直しを検討しています。

マテリアリティ	マテリアリティの概要	関係するSDG
環境材料	持続可能な生産と廃棄物の削減	12, 13, 14, 15
加工機械	プラスチック加工技術の進化	9, 10, 11, 12, 13
住宅建材	ダイバーシティの推進	5, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
建設機械	高品質な製品とサービスの提供	9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
産業用樹脂	CO2排出削減の推進	13
水処理装置	環境負荷低減の推進	6, 12, 13, 14, 15
社会関係資本	企業行動の透明化	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
自然資本	CO2排出削減の推進	13
知的資本	コアテクノロジーの強化	4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17

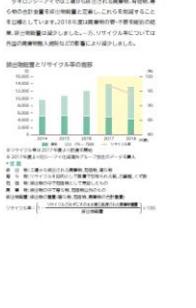
環境指標

タキロンシーアイグループは環境負荷低減・環境保全に向けた取り組みの一環として、タキロンシーアイグループの活動領域にわたる環境指標について情報を開示し、公表しています。そして、グループ活動の中で事業活動に伴う環境負荷の低減や削減とその結果を測定し、改善の取組にむかっています。環境負荷低減・環境保全活動を推進しています。

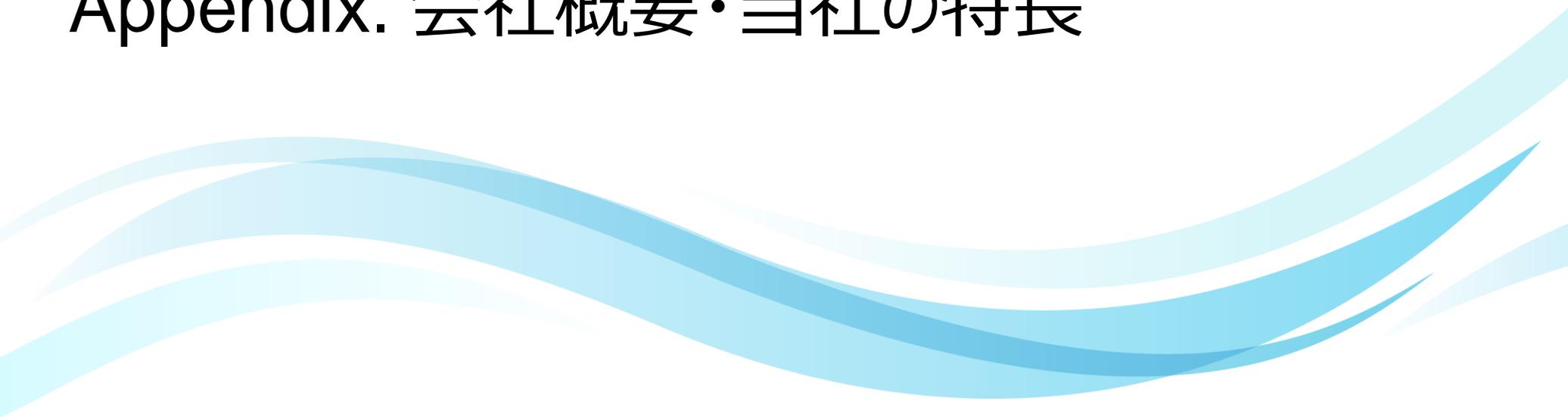
省エネ・省資源の取り組み



排出物削減の取り組み



Appendix. 会社概要・当社の特長

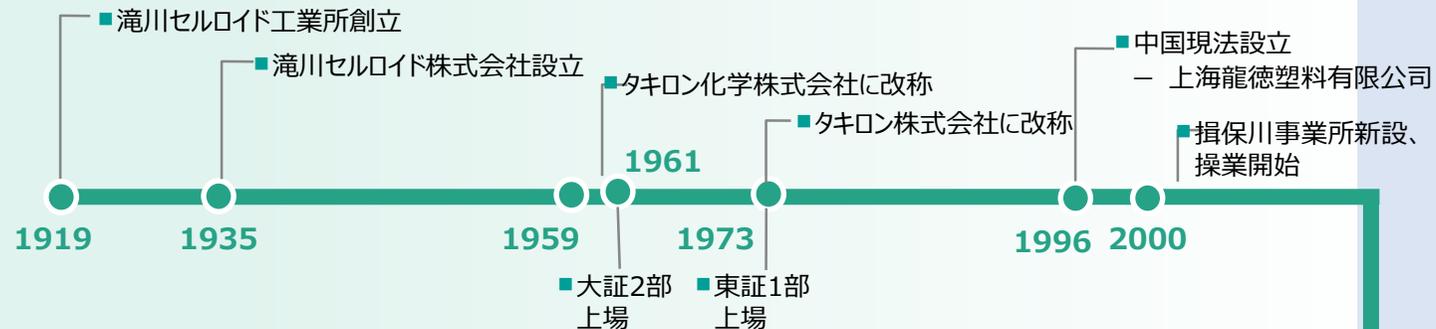


1. タキロンシーアイの概要

会社名	タキロンシーアイ株式会社	C.I.TAKIRON Corporation
本社	大阪市北区梅田三丁目1番3号（ノースゲートビルディング）	
設立	1935年12月20日	
事業内容	1. 合成樹脂製品の製造・加工・販売 2. 無機化学工業製品の製造・販売 3. 電気材料、金属材料、磁性材料、超微粒子材料およびそれらの応用製品の製造・販売 4. モータおよび電子部品の製造・販売 5. ゴム製品の製造・販売 6. 紙製品の製造・販売 7. 種苗、肥料、飼料および土壌改良材の製造・販売 8. 医薬品、医薬部外品、医療機器、動物用医薬品、動物用医薬部外品、化粧品、農薬および工業薬品の製造・販売 9. 各種機械器具装置および金型の設計・製作・販売・リース 10. 建設工事の請負ならびに設計・管理 11. 一般貨物自動車運送業、貨物運送取扱業および倉庫業 12. 不動産の賃貸 13. 前各号に関連する事業ならびに付帯する一切の業務	
代表者	代表取締役会長CEO 南谷 陽介、代表取締役社長COO 齋藤 一也	
売上高	150,605百万円	(連結/2019年3月期)
営業利益	9,080百万円	(連結/2019年3月期)
経常利益	9,200百万円	(連結/2018年3月期)
親会社株主に帰属する当期純利益	6,391百万円	(連結/2019年3月期)
資本金	15,189百万円	(連結/2019年3月期末)
従業員数	約3,500名	(連結/2019年3月期末)
証券コード	4215 東証第一部	

2. 会社沿革(1)

タキロン(株)

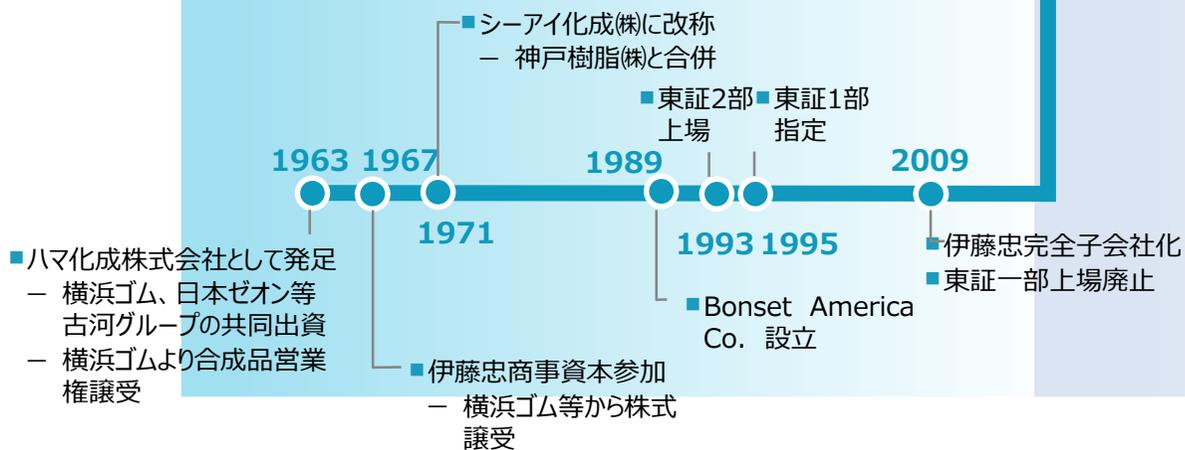


タキロンシーアイ(株)

2017 2019

- 創立100周年

シーアイ化成(株)



■ 経営統合
- タキロンシーアイ株式会社と商号変更

3. 会社年表(1)

タキロンシーアイ 100年のあゆみ

タキロンシーアイはおかげ様で創立100周年を迎えました。
それぞれの時代で「お客様のために」挑戦し続けてきたタキロンシーアイの軌跡を年表でお伝えします。

1919-1970



瀧川佐太郎

1919

●瀧川佐太郎、大阪府東成郡小路村大字片江(現大阪市生野区)に「瀧川セルロイド工業所」を創設し、再製セルロイドの販売開始



セルロイド生地が使用された人形

1923

関東大震災

1914-1918

第一次世界大戦

1929

世界恐慌の発生

1939-1945

第二次世界大戦



当時の
乾干工場

1935

●兵庫泉孫保部御津町(現たつの市御津町)に乾干工場を新設
●「瀧川セルロイド株式会社」と改称し、法人組織とする(資本金3百万円)。代表取締役社長(初代)西田常雄



1959

●「タキロン化学株式会社」に社名変更し、社章を制定

1955

●硬質塩化ビニル板「タキロンプレート」販売開始



製品試作機と研究グループ

1954-1957

朝鮮特需による好景気

1958

●押出製法による硬質塩化ビニル波板製造開始



1963

●横浜建設製造株式会社(現横浜ゴム株式会社)と日本ゼオン株式会社などの古河グループの共同出資により「ハマ化成株式会社」発足(資本金4億7千3百万円)

ハマ化成の本社が置かれたハマゴビル

1961

●大阪証券取引所株式会社第二部に上場
●ポリカーボネート板製造開始

1964

東京オリンピック

1965

●農業用ビニルフィルム製造開始

1964

●滋賀県甲賀郡石部町(現湖南市)に滋賀工場を新設



当時の滋賀工場

1928

●パール生地(真珠のような色と光沢をもつセルロイド生地)の発売開始

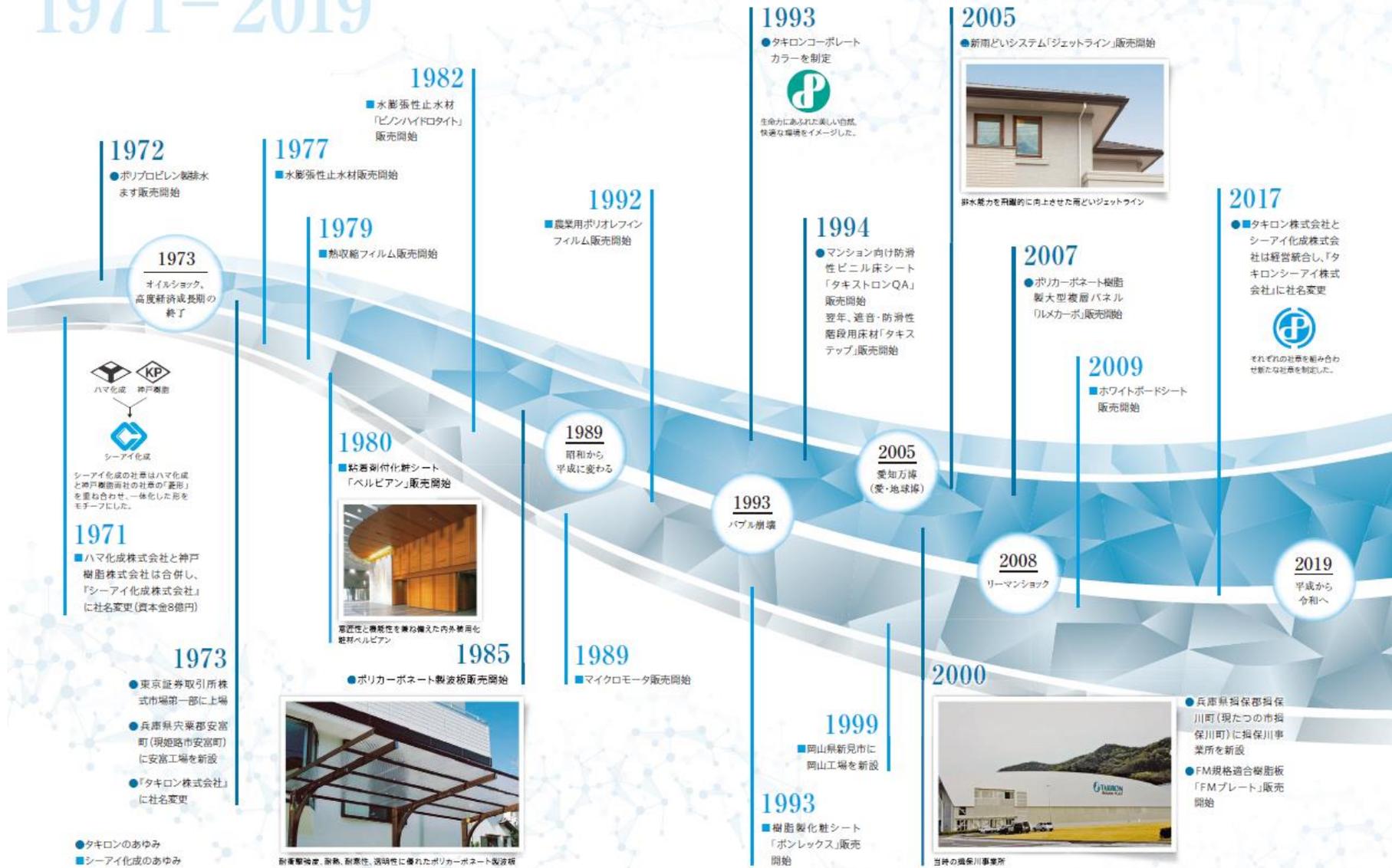


パール生地を使った戦前の万年筆

- タキロンのあゆみ
- シーアイ化成のあゆみ

3. 会社年表(2)

1971-2019



4. 国内拠点

■ 国内製造拠点：21拠点



5. セグメント概要とグループ会社

タキロンシーアイグループ

	国内	海外
建築資材事業		
住設資材事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● 三和サインワークス ● 日本ポリエステル ● タキロンKCホームインプルーブメント 	
床・建装事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● タキロンマテックス 	<ul style="list-style-type: none"> ● BONLEX EUROPE
環境資材事業		
アグリ事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● 北海道サンプラス ● ヨコビ ● シーアイマテックス ● シーアイアグロ 	<ul style="list-style-type: none"> ● PT.TAKIRON INDONESIA ● 上海シーアイ化成貿易
インフラマテリアル事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイライト ● ダイブラ <ul style="list-style-type: none"> ● 北海ダイブラ ● ダイブラテック ● タキロンエンジニアリング 	
高機能材事業		
高機能材事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● タキロンポリマー ● CIKナノテック ● タキロン・ローランド ● タキロンテック 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上海シーアイ化成電子 ● タキロン常州
機能フィルム事業		
ボンセット事業部	<ul style="list-style-type: none"> ● ボンパック 	<ul style="list-style-type: none"> ● Bonset America ● Bonset Latin America
サンジップ事業部		<ul style="list-style-type: none"> ● 上海サンプラス

6. 事業ポートフォリオ

機能フィルム事業本部

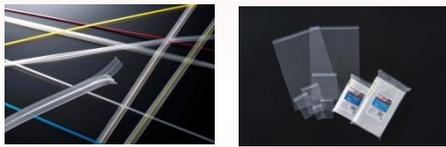
◆ **ボンセット事業部**

飲料用ラベル 化粧品・日用品 医薬品用



◆ **サンジップ事業部**

ジッパーテープ 食品用ジッパー袋



◆ **高機能材事業部**

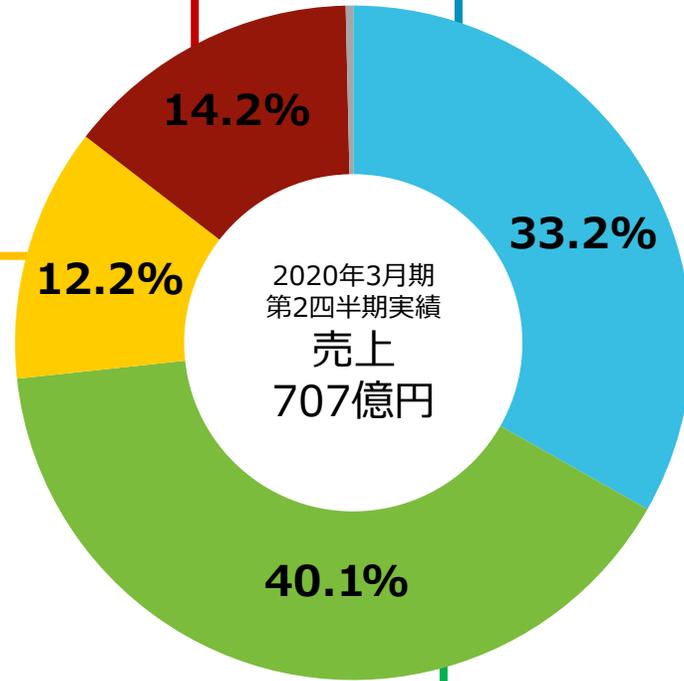
工業用プレート 高機能ポリカーボネートプレート タングステンシート



静電プレート マイクロモータ ホワイトボードシリーズ



高機能材事業本部



建築資材事業本部

◆ **住設建材事業部**

採光建材 防滑性ビニル長尺床材 ポリエステル系化粧材



◆ **床・建装事業部**

管工機材 内外装用建装資材 防災製品



◆ **アグリ事業部**

農業用フィルム 包装資材 灌水チューブ



◆ **インフラマテリアル事業部**

水膨張性止水材 遮水シート 止水板

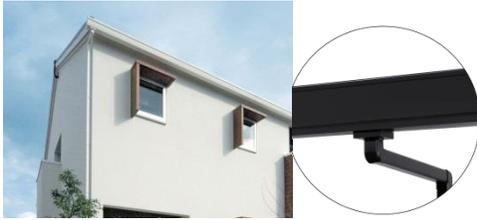


環境資材事業本部

7. 事業内容

① 建築資材

- 床材分野におけるストック市場である国内マンション改修市場においてトップシェアを誇る成長ドライバー
- 建装資材：「ボンレックス」は欧州市場において成長、イタリア・日本で生産拡大。「ベルビアン」は北米を中心に輸出拡大

住設建材		
<h4>採光建材</h4>  <p>ポリカ波板：シェア70% PVC（塩ビ）波板：シェア60% ポリカ板：シェア40%</p>	<h4>住宅資材</h4>  <ul style="list-style-type: none">■ 「サイホン現象」活用により排水能力を飛躍的にアップさせた画期的雨どい	<h4>管工機材</h4>  <p>雨水ます PP製：シェア55% プラスチック性：シェア45%</p>
床・建装資材		
<h4>床材：防滑性ビニル床シート</h4>  <ul style="list-style-type: none">■ マンション改修市場にてトップシェア マンション市場全体：シェア40% マンション改修市場：シェア70% プールサイド用途：シェア70%	<h4>建装資材：ベルビアン</h4>  <ul style="list-style-type: none">■ キッチン扉・家具などさまざまな部材の化粧シートとして利用■ 世界の家具メーカーに販売	<h4>建装資材：ボンレックス</h4>  <ul style="list-style-type: none">■ オフィスやホテル等、塗装では得られないデザイン・質感が求められる空間の内外装に最適■ 欧州全域で販売

7. 事業内容

②環境資材

- 農業用フィルムにおいて国内トップシェア。「ニーズに応える農業用資材の提供」「システム農業」を通じ、より良い農業環境の実現を目指す
- インフラマテリアルについては、トンネル向け遮水シート等需要が拡大する分野において高シェアかつブランド力を確保。ハウエル管の市場は今後も拡大

アグリ

農業用フィルム



- ハウス内に降り注ぐ光を散乱させ柔らかにする「カゲナシ5」
PVC（塩ビ）フィルム：シェア34%
ポリオレフィンフィルム：シェア31%

包装資材



- 強く使いやすい鮮やかな色彩のテープは農業用から手芸用まで幅広く利用

灌水チューブ



- 孔の大きさをカスタマイズし、均一な水量を短時間で注ぐ

インフラマテリアル

遮水シート



- 用法・工法などあらゆる条件・ニーズに応じたラインアップ
廃棄物施設向け：国内シェア35%
山岳トンネル向け：国内シェア50%

止水板



- 柔軟で作業性がよく、耐久性高い
PVC（塩ビ）止水板：国内シェア45%

水膨張性止水材



- 合成ゴムと給水性樹脂を特殊製法により混合・成形

ハウエル管



- 高密度ポリエチレン樹脂製、強靱で柔軟・衝撃に強く、鋳鉄管やヒューム管の代替として今後のインフラ更新需要拡大

7. 事業内容

③ 高機能材

- 先端産業分野では、高い性能をもったプラスチック材料が求められ、独自の高分子テクノロジーを駆使、高付加価値製品を提供
- 高性能な精密モータは繊細な動きに対応、小型ロボット・精密機器・医療機器等幅広い需要に対応

工業用プレート



樹脂板

高機能ポリカーボネートプレート



静電プレート



ホワイトボードシリーズ



磁性材関連・マイクロモータ

マイクロモータ



7. 事業内容

④ 機能フィルム

- 熱収縮フィルムにおいては高度な技術力、ノウハウで世界のブランドオーナーから高い評価を獲得
- 高精度で多様なジッパーを提案。食品、薬品などにおいて世界中で需要が拡大

ボンセット（熱収縮フィルム）

飲料用ラベル



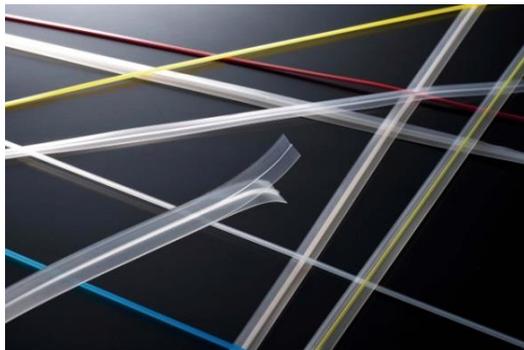
シュリンク（熱収縮）フィルム：
国内シェア40%
シュリンクフィルム全体：
世界シェア10%
(OPS、PET、PVC)

- 世界3極体制（日本・北米・南米）により世界中の需要に対応



サンジップ（ジッパー）

ジッパーテープ



ジッパー袋



- PE（ポリエチレン）やPP（ポリプロピレン）などの素材を組み合わせる高度な成形加工技術で、お客様の「再開閉ニーズ」に応える高精度の「サンジップテープ」

ジッパーテープ
国内シェア：40%
世界シェア：3%

8. 海外拠点

■ 海外製造拠点：7拠点

BONLEX EUROPE
[イタリア ヴェネト]



タキロン(常州)塑料 [中国 常州]



Bonset America
[アメリカ ノースカロライナ]



上海サンプルス
[中国 上海]



上海シーアイ電子
[中国 上海]



PT. TAKIRON INDONESIA [インドネシア スラバヤ]



Bonset Latin America
[ウルグアイ カネロネス]

本日はありがとうございました

今日を支える、明日を変える。

IRに関するお問い合わせ先

タキロンシーアイ株式会社 経営企画部

電話：03-6711-3718

e-mail：m-sekine@takiron-ci.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。